

(他の2人の女性議員と共に、請願第49号河合谷小学校を一時凍結する請願、第51号町議会内に仮称「ボートピア津幡」問題調査委員会の設置を求める請願、第52号仮称「ボートピア津幡」設置活動長期化による計画無効を求める請願に賛成の立場で討論するはずでしたが、準備した討論は、私たちの一瞬の躊躇、議長の鮮やかな進行により幻の原稿となってしまいました。しかし、その後すぐに提出された『教育予算の拡充を求める意見書(提出議員:多賀吉一、賛成議員:森山時夫、河上孝夫)』の内容は、「教育派未来への先行投資であり、ひとしく良質な教育が受けられることは極めて重要である。そのため、教育予算は、しっかりと確保・充実させる必要がある。よって、、、」とあり、小規模校では競争ができない、切磋琢磨競争河合谷小学校閉校を推進することとあまりに矛盾を感じ、フィンランドの事例を紹介することであえて賛成討論を決意しました。討論は、通例として反対意見から始まることになっているので、異例の討論となりました。)

私は議会議案第19号「教育予算の拡充を求める意見書」に対し賛成の立場で討論いたします。ここに書いてありますように、きめ細かな対応ができるようにするために、少人数教育が実施されている、本当にそのとおりだと私は思います。しかし、自治体独自に少人数教育を推進することには限界があると、それも本当にそのとおりだと思います。教育は未来への先行投資であり、子どもたちがどこに生まれ育ったとしても、ひとしく良質な教育が受けられることは極めて重要であると本当に思います。河合谷小学校の閉校に関して、このような意見書が出されたら、どんなにすばらしいことかと私は思います。

今、15歳を対象に、2000年から3年おきに実施され、3回目となった学習到達度調査(PISA)の結果報告で、日本は全分野で順位が後退し、学力低下がクローズアップされています。一方で、トップクラスを維持しているフィンランドの教育に世界中から関心が高まり、教育関係者が視察に訪れています。

私ごとですが、私の娘たち家族がフィンランドで暮らしています。娘から伝え聞くところでは、少子化も日本と同じですが、国をあげて生まれてきた子どもを大切に育てるとのこと、教育の面では、日本とは根本的などころで隔たりがあるのを感じていました。フィンランドの子どもたちの高い学力は、競争を排した少人数学習や、読書の習慣が広く深く浸透していて、進んだ図書館ネットワークが存在することなどにも起因しているのではないかと思います。

先日読んだ雑誌にフィンランドの学校を視察した教育者のレポートがありま

した。「日本では、競争しないと子どもたちは勉強しないという人がいます。子どもたちの間で競争はないのですか」という質問に対しては、私たちの言っていることがなかなか理解できないようでした。そして、「競争とは自分とのたたかいでしょう」と返ってきました。校長先生が当たり前のようにサラリと言われたのが印象的でした。教育は、子どもたちが昨日できなかったことが今日できる、今日できなかったことが明日できるように援助することで、他人と比較したり、競わせたりするものではないのです。フィンランドは、子どもたち一人ひとりを大切に育て、その可能性を伸ばす努力をし、学力世界一になったのだと思いました。それは、教育基本法の本質そのものでした。」とありました。

私は、河合谷小学校の閉校の問題に関して、子どもたちが本当に幸せな教育が受けられたらいいと願っています。教育予算の拡充を求める意見書、私は心から大賛成をして、私の賛成討論といたします。